

第8回〈3.11以降〉読書会資料

前々回のおさらい

「逆に決定的なのは、現在において思考すること、そして現在を思考することではなかろうか。」（p. 64）

- 「現在において、現在を思考すること」の意味は？

「この非等価性が存在するのは、こうした特異的なもの——色や音や匂い——へと注意が向けられることによってである。」（p. 67）

- 「特異的なもの」とは？・・・たとえば「諸々の人々、瞬間、場所、振る舞い」、「昼や夜の時間、差し向けられたことば、過ぎ去る雲、巧みな遅さで成長する生物」（p. 66-7）

前回のおさらい

「ほかのどのような文化も、われわれの近代文化ほど、古文書や将来の予測を絶えず蓄えるという経験を持ちはしなかった。ほかのどのような文化も、過去や未来を現在化し、現在から、それに固有の過ぎ去りという性質を奪うことはなかった。逆に、ほかの文化はどれも、特異な現在の存在の接近に留意する術を知っていたのだ。」（p. 69）

- 「現在であること」の特異性＝技術による代替不可能性
- 「特異な現在の存在の接近に留意する」こと——将来や過去へ向けられたある目的を志向するのではなく「現在を直視する」こと
- 「現在の存在」＝英語の“**the presence**”：①存在（すること）、いること、出席、列席。②面前、そば、近接、③**a.** 存在感、（堂々とした）態度、風采。**B.** 威厳のある（人目をひく）人。④（主に警察・軍隊の）駐留、駐在、その影響力。⑤（通例 **a**～）（ある場所に）存在するもの（人）、（目に見えない）霊（気）、亡霊、影響力。⑥臨場感
- 平等性と等価性
 - 等価性——交換可能、通約可能
 - 平等性——交換不可能、通約不可能、「尊厳の点で厳密に平等だということ」
- 尊厳を認めること、（強い意味での）敬意を払うこと
⇒ 「そのものの存在を認めること」 vs.
「決して自分のモノサシでは測ることのできない価値のあることを認めること」